

連載 プロマネの現場から

第 161 回 武漢事情

蒼海憲治(大手 SI 企業・上海現地法人・技術総監)

新型コロナで世界的に一躍有名になった都市・武漢・・2020年1月23日に武漢を出発する航空便や高速鉄道などを止めて以来、一部地域は自宅の部屋から一步の外出も許されない文字通りの完全「隔離」を経た2カ月半後の4月8日に封鎖解除されました。当時、隔離中のメンバーと連絡を取り合っていました、一千万人以上の人がいるはずの街がゴーストタウンと化したため恐怖を感じていることや、肉や魚などのたんぱく質がほとんど口にできず野菜ばかり食べている等、大変さが伝わってきました。

しかし、その効果もあり、封鎖解除から半年経った2020年の10月の国慶節の休みには、武漢市内では、市内の23か所のAクラス観光地が無料で開放される「打卡大武漢(大武漢にチェックインしよう)」というキャンペーンが行われました。驚いたことは、「武漢」が中国国内の人気観光地一位に選ばれたことでした。上海など他の都市の人から見ると、いま、新型コロナで一番安全な都市は「武漢」である、という評価でした。

また、経済面でも、武漢の客先を訪問した際に、見聞きしたのは、鉄鋼・自動車業界を中心に、生産ラインはフル稼働で、史上最高の増収増益を達成している、ということでした。

そのためか、ここ半年、出張時に訪問した際の武漢の空は、終日曇天、濃霧模様の日が多くなりましたが、その原因は、霧ではなく、PM2.5でした。経済が復活するとともに、環境問題が再発している状況です。

2017年に上海に赴任以降、大連とともに、月に1度のペースで訪問していました。途中、昨年2020年は新型コロナのため、1年余り出張を控えていたのですが、現在は、出張や旅行も再開し、訪問回数も、のべ30回を超えたので、今回は、武漢の様子を紹介したいと思います。

1. 武漢はどこにあるか？

湖北省にある武漢市は北京・上海・広州・成都など中国主要都市の中央に位置しています。武漢市は、市の中心を東西に長江が流れています。西から長江に流れ込む漢水があり、その漢水の北側が漢口。漢口の南側が漢陽。それらの対岸が武昌になり、これら三都市を総称した名が、武漢になります。漢口は商業、漢陽は工業、武昌は政治・大学の街といわれます。

武漢市の総面積は、8569 km²であり、兵庫県や広島県とほぼ同じの大きさになります。ただし、山の多い兵庫県や広島県に比べて、武漢は平坦で湖沼が多く、四方八方に交通網が

発達しており、人が住める可住地面積ははるかに大きいと思います。また、人口は約 1 2 3 0 万人で東京と同じくらいですが、毎年 3 0 万人ほど増えている、とても勢いのある都市の一つです。

気候は、亜熱帯の大陸性気候で、四季はあるものの、春と秋は短く、夏は、最高気温が 4 0 度を超えることがあり、かつては重慶・南京と並んで、中国の三大ストーブと呼ばれました。現在は、武漢の環境が改善したことと、他の都市の方が暑くなったため、三大ストーブでなくなりましたが、やはり暑いです。

歴史的には、大詩人・屈原を輩出した春秋戦国時代の楚の国として、また、三国志の名所旧跡も数多く残っている歴史のある都市です。

2. 武漢の経済

湖北省の GDP は、4 兆 3,443 億元（約 6 9 兆円）であり、台湾やサウジアラビアと同じくらいの経済規模になっています。そのうち、武漢市の GDP は約 4 割を占める 1 兆 5,616 億万元（約 2 5 兆円）あります。

中国発展研究基金会（CDRF）と PwC が共同で調査している「Chinese Cities of Opportunity 2019」（以下、都市機会レポート）では、さまざまな角度から中国の各都市別のランキングを発表しています。この都市機会レポートによると、武漢は、高等教育在校生の規模や就業者の教育レベルなど 8 項目でトップ 1 0 にランクインしています。特に、高等教育在校生の規模では 1 位、教育レベルと国家重点実験室（ラボ）の設置数ではいずれも 3 位に位置付けられており、武漢は高等人材の集積地であると評価されています。

武漢の産業は、「鉄鋼」「ハイテク」「自動車」「機械」四つが柱となっています。

製鉄を中心とする素材型製造業、光エレクトロニクス分野の開発・製造企業、自動車を中心とする機械製造業、新薬開発をはじめとする生物バイオ産業などが集積しています。特許件数は、中国国内都市ランキング第 3 位を誇っています。

また、スマート製造のため、5 G や A I、ビッグデータなどのスマートテクノロジーを活用し、産業用ロボットの導入や、既存の生産ラインの高度化を図る企業に対する優遇施策が採られています。

近年、日本に馴染みの深い大連などの東北地区の経済が停滞しているのをしり目に、武漢市内は発展が著しく、土地や賃金が急上昇しています。その一方、武漢市周辺の都市は、武漢市内に比べ、土地価格、レンタル工場の家賃などはまだ安価であるため、日系の製造業の進出が相次いでいます。ホンダ、日産など世界の完成車メーカー 5 社が武漢に進出しているため、進出している日系製造業も自動車関連企業が多くなっています。

4、5年前まで、武漢を上海からのニアショア拠点として活用していましたが、近年のコストアップにともない、ニアショア拠点としての利用から、マーケットとして見るようになりつつあります。

商業や流通の面では、武漢市内には多数の商圈があります。地場資本である武商集団、中商集団、中百集団の3大集団が強く、多数の百貨店が経営されている一方、外資系は、ウォールマート、メトロ、カルフル、ロータス、イケアなどのスーパーマーケットが進出しています。日系も、イオンモール、イオンのスーパーマーケットや、ユニクロ、無印良品、ニトリなどの専門量販店が数多く店舗展開しています。

また、日系の銀行としては、みずほ銀行、三菱UFJ銀行の2行の支店があります。

新型コロナの都市封鎖により、一時大幅に経済が落ち込んだ武漢ですが、コロナ禍においても、操業が止まらなかった分野があります。その一つは、武漢鋼鉄の製鉄所でした。製鉄所は24時間365日休むことなく操業する必要がありますが、文字どおり、継続し続けました。2020年の夏、長江中流域で断続的に豪雨が発生し、長江が増水した際は、長江の水量を24時間監視し、洪水の予兆を見守っていたといいます。

もう一つが、半導体の分野でした。中国政府及び武漢市の威信をかけた重要プロジェクトである、中国半導体「1000億元(約1兆6千億円)プロジェクト」の推進です。中国企業が使用する半導体について、2020年までに40%、2025年までに70%を国産化する目標を掲げたものです。米中貿易戦争が継続中であるため、外国依存度が高い半導体の国産化に向けた取り組みですが、苦戦中とのニュースも見聞きます。そのこともあり、日系企業に対する期待も大きく、通常であれば、中国に入国後、2週間の隔離が必要であるのに対して、特定の産業関係者に対しては、「2週間隔離」を緩和し、寮と工場との間、専用バスを使つての業務を認めていました。このあたりの運用、とても柔軟だと思いました。

3. 武漢の日系企業

武漢に進出している日系企業ですが、武漢日本商工クラブに所属している企業は159社ですが、工商登記ベースで見ると約250社になっています。中国全体で約1万4千社の進出企業がありますが、湖北省で全体の約1.5%を占めています。実に、湖北省に進出している企業のうち、8割超が武漢市に集中しています。

帝国データバンクによると、業種別で見ると、「製造業」が最も多く92社(構成比46.2%)。次いで「卸売業」(38社、同19.1%)、「サービス業」(28社、同14.1%)など。細分類では、「自動車部分品等製造」が23社(同11.6%)で最も多くなっています。

公安への届け出されている在住日本人は460人になっています。市内には、日本料理店も多くあり、在住者以上に、日本人の出張者が多くきているように思います。2019年の年末、武漢商工会主催の忘年会に参加させていただきましたが、440名の大宴会であり、とてもアットホームで良い感じがしました。

昨年末の報道では、武漢市に、いよいよ日本領事館が開設されるというニュースが流れました。早ければ2021年中、遅くても2022年中に日本政府が武漢市にまず領事事務所を開設し、この領事事務所を、領事館に昇格させる予定とのことでした。この領事館設立は10年越しの事案であり、また、昨今の日中間の関係をみると予断を許しません。設立されれば、武漢との関係もより緊密になると思います。

4. 武漢IT状況

(新型コロナ以前になりますが)2019年11月末時点、湖北省におけるIT企業は2476社(中国IT企業数割合:6.14%)、その中の97%は武漢市に集中しています。武漢市にあるIT企業は中小企業が中心になっています。

その一方、JETROのレポートによると、中国有数のITデジタル企業が、武漢に「第二本部」を設立する動きが加速している、といます。たとえば、ニュースアプリの「今日頭条」(Toutiao)、スマートフォン・IT機器の「小米科技」(xiaomi)、IT大手の「神州数码集团」(デジタルチャイナ)、SNS型EC(電子商取引)アプリの「小紅書」(RED)、オンライン教育の「猿輔導」(ユアン・フーダオ)などが挙げられています。2019年時点で、武漢にはユニコーン企業17社、上場企業21社を含む約80もの有力ITデジタル企業が「第二本部」を設置しており、「光谷(大学周辺のIT開発区)は、中国における第二本部の集積地」となっています。

武漢は大学生が120万人もいる若者の街ですが、日系のIT企業が優秀な学生を獲得するのが難しい理由が、中国ローカルのIT企業が活発な点にあります。中国ローカル企業の給与水準が、日系企業と変わらなくなっている現在、IT能力の長けた人材に、日本語能力を求めることで人材マーケットが小さくなってしまいます。

5. 武漢の魅力

(1) 中国国内のアクセスの良さ

古代の中国においては、中国全土を9つの地域、九州に分けたため、中国全域のことを、九州と呼びます。武漢は、この「九州(省)に通じる交通の要所」(「九省通衢」(四川、陝西、河南、湖南、貴州、江西、安徽、江蘇、湖北省と通じる交通の要所の意))と呼ばれ、3500年の歴史を有する文化都市です。

湖北省は春秋戦国時代であれば楚の位置にあたります。三国志の時代であれば荊州であり、魏・呉・蜀が交わる焦点の地であったため、長坂坡（ちょうはんは）の戦い、赤壁の戦い、夷陵の戦いなど、大きな戦いがあった歴史好きにはたまらない土地になります。

中国国内において、武漢は、東の上海、西の成都、南の広州、北の北京のほぼ真ん中に位置し、飛行機・鉄道・道路は東西南北に走っています。飛行機なら、各々2時間以内に行くことができます。また、海運においても武漢港は24時間通関可能であり、武漢市の中央を流れる長江を利用することで、そのまま外国へ直結しています。

（2）大学生が多い

武漢の街を歩いていて気付くのは、若い人、学生の多さです。湖北省には高等教育機関（大学院、大学、短大、高専等）が129校あり、そのうち86校が武漢市にあります。学生数は約120万人であり、全国の大学生数の5%を占めています。

中国ベスト10の大学である武漢大学、華中科技大学を筆頭に、有名な大学も多数あります。20-24歳人口が人口全体の約12%を占め、20代人口は全体の21%を占める、感覚の通り、非常に若い街です。

（3）武漢の食べ物

湖北省の料理は、上海が甘く、大連が海鮮系でさっぱりしているのと異なり、少し辛めです（それでも、湖南省や重慶などの激辛に比べるとまだましです）。

6月から夏にかけての名物は、なんとといっても「ザリガニ」です。日本では食べることのないアメリカザリガニが大量に養殖されています。一匹の食べる部位は、エビやカニと異なり、背中の一部のみなので、一人20匹から50匹平らげることになります。

武漢は標高が低い平地のため、池沼や湖が数多くあります。そのため、蓮根の栽培が多くされており、蓮根（茎）はもちろんのこと、ハスの実や蓮根の根も、食べる機会が多いです。

最も、食べる機会が多いのは、毎朝の朝食にしている「熱乾麺」です。熱々の麺にゴマダレがかけられて汁なし麺を食べると、武漢にいることを感じます。武漢人にとっての「ソウルフード」だと思います。その外にも、三鮮豆皮、歓喜団子、カモの首肉（ヤー・ボー）など、名物がたくさんあります。

（4）武漢市内の見どころ

①黄鶴楼（こうかくろう）

武漢で一番有名な名勝地であり、中国の『江南三大名楼』の一つになっています。

李白の代表的な漢詩「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之（ゆ）くを送る」や崔顥の「黄鶴楼」にてその名を知られています。長江の南側にある楼閣で、三国時代の呉の223年に

創建され、当初は軍事上の見張り台でした。その後、焼失の度に何度も再建され、現在のものは、1985年6月に再建されたものになります。悠久の歴史を持つ中国ですが、建物は新しいのが特徴です。

②湖北博物館

旧石器時代から近現代に至る文化財約 20 万点を収蔵する巨大な博物館です。楚の遺跡から出土した文物は特筆されますが、陶器、磁器、青銅器、古代文字資料の竹簡、兵器、古楽器、金玉器、銀製品など多岐にわたっています。その中でも、古代の楽器の中国最大の博物館であり、最大かつ最も広範なコレクションがあります。博物館内で、この古代の楽器を用いた演奏会を聴くことができます。毎日何度か行われており、2千年前の音楽を楽しむことができる貴重な機会であり、また機会があれば行ってみたいと思っています。

③漢口江灘

上海の外灘（わいたん）は有名ですが、武漢にも江灘（じゃんたん）があります。

漢口は、1858年に結ばれた天津条約により開港し、イギリス・ドイツ・フランス・ロシア・日本の5カ国の租界が置かれ、「東方のシカゴ」とも呼ばれました。外灘同様、歴史的建築物が多くあります。このあたりの歴史の経緯は、漢口沿江大道にあり鐘楼が美しい江漢関博物館で見ることができます。漢口からは、長江の対面に、黄鶴楼をみることができます。川沿いの散歩道はとても歩きやすく、朝夕の散策に適しています。

④武漢大学

武漢大学は、東湖のほとりにあり、緑に囲まれた美しいキャンパスを有し、中国で最も自然の美しい大学といわれる大学です。1893年設立の武漢大学は、国務院教育部直轄の重点大学であり、中国の重点大学の指定である985工程、211工程の対象大学となっています。総敷地面積は344万平方メートルと広大で、東洋と西洋の様式を融合した歴史ある建物も多く、26棟が全国文物重点保護単位に指定されています。学生数は7万人で、そのうちの約4割を大学院生が占めます。

大学の中心にある桜花大道は長さ約200メートルの桜並木であり、キャンパスの広大な敷地内には1000本あまりの桜が植えられています。そのため、毎年春には多くの人が桜を見に武漢大学を訪れています。あまりの人気ぶりに、コロナ以前は、平日の予約人数は1万5千人、週末の予約人数は3万人に制限されています。都市閉鎖中の2020年は大学も閉鎖されていましたが、今年2021年の3月から、コロナ対策に苦労した医療関係者を中心に開放されました。社員の一人に武漢大学の先生に知り合いがいたため、その先生を訪問した際、幸運にも満開の桜と一緒に愛でることができました。

⑤東湖（とうこ）

東湖は、武昌区の北部にある湖で武漢東湖風景区になっています。東湖の面積は33平方キロメートルあり、湖の周辺の陸地を加えると広さは約80平方キロメートルあります。この広大な湖の周囲「東湖緑道」は東湖沿岸に整備された散歩道で、そこは自動車の通行が禁止されており、観光客用の自転車でのドライブと散歩用の道になっています。

日本の弘前桜公園、ワシントン桜公園と並んで、東湖桜公園は世界三大桜公園の一つにもなっています、東湖桜公園には、50種類、トータル1万本以上の桜が植えられています。夜には、ライトアップされた美しい夜桜を愛でることができます。

⑥武鋼博物館

武漢は、実は、中国近代鉄鋼業の発祥の地です。清王朝の時代、光緒16年（1890年）に、漢陽亀山下に中国で最初の製鉄所 漢陽製鉄所の建設が決定されました。この1890年、武漢と同じ湖北省にある黄石市で、優良な鉄鉱石の鉱床、大冶鉄鉱山が発見されました。この鉄鉱石は、日本の官営八幡製鉄所の原料としても輸出されたといわれています。

現在では、漢陽製鉄所は当時の赤レンガ造りの煙突が残るのみですが、モノづくりの伝統は、現在の武漢鋼鉄（合併により、現在は宝武鋼鉄集団）青山製鉄所に引き継がれています。この武漢における鉄の歴史がわかりやすく展示されています。

特に印象に残るのは、中国の鉄鋼業の近代化にあたっては、日本からも大学や各企業から数多くの技術協力がなされたことと、欧米からも大量の技術者・研究者が貢献していることでした。改革開放以降の中国における産業の発展が、世界中の人々の協力によってできていることを垣間見ることができる場所になっています。

（5）武漢郊外の見どころ

①赤壁

三国志で最も有名な古戦場、『三国志』の山場「赤壁の戦い」の舞台です。赤壁市は、湖北省東南の長江中流の南岸に位置し、武漢から車で2時間ほどの112キロメートルの距離ですが、そこに赤壁古戦場のテーマパークがあります。テーマパーク自体は10年ほどの歴史しかないのですが、長江の壁面に描かれた赤色の「赤壁」の二文字を見て、曹操率いる魏の軍が陣を張った対岸の烏林を眺めながら、1800年前の三国志時代の様子、映画『レッドクリフ』を妄想し、楽しむことができます。

②襄陽城（じょうよう）

湖北省襄陽市にある襄陽城は、長江の最大の支流、漢江中流の南岸に位置し、前漢時代の紀元前201年（前漢の高祖6年）に建築が始められ、2200年の歴史を持っています。三方が水に囲まれ、一方は山に面しており、守りやすく攻めにくい城となっています。荊州牧であった劉表が襄陽を治めたときに築かれた荊州城壁は、高さ8～9メートル

ル、厚さ約10メートル、周囲は約10キロメートルを誇りますが、現存するのは明清時代に修築されたものになります。しかし、大きさは、三国時代とほぼ同じであり、蜀漢の武将の関羽と曹魏の軍隊が同城に攻め入った様子を妄想することができます。

現在の襄陽城内は老街となっており、食べ歩きを楽しむことができるようになってい

③古隆中(こりゅうちゅう)

湖北省襄陽市から13キロメートルほど離れた場所にある古隆中は、諸葛亮孔明の草庵を中心に整備された観光地で、1800年の歴史を持っています。『三国志』において、劉備が三度、諸葛亮を訪れて、漢の再興に助力を願った『三顧の礼』の舞台です。風景区は山々に包まれ、中には松や柏などの木々が高く聳え、とても美しい景色が広がっています。

諸葛亮は、徐州琅邪郡陽都県（現在の山東省臨沂市沂南県）生まれですが、幼い時に両親を亡くし、叔父の諸葛玄のところに預けられますが、17歳の時、その叔父も亡くなり、この地に移り住みます。17歳から、劉備に迎えられるまでの27歳までの10年間、この山の庵で、農作業をしながら、司馬徽先生のもとで学ぶ、文字通り、晴耕雨読の生活を過ごします。その当時の様子を表したものとして、諸葛亮が膝を抱えて、川を眺めている銅像があります。溢れんばかりの才能がありながら、機会に恵まれず、実力を発揮できないでいる者のたとえとして、「伏龍」と呼ばれるように、諸葛亮は、この10年間でどのような心中で過ごしていたことか、と思わずにはられません。

『三国志』にまつわる遺跡は、この他にも多数ありますが、またの機会に紹介できればと思います。

④三峡ダム

武漢から新幹線で1時間半ほどのところにある宜昌市にある世界最大のダムです。黒部ダムの200倍の貯水量を誇ります。洪水抑制・電力供給・水運改善を主目的とし、1993年に着工、2009年に完成しました。三峡ダム水力発電所は、70万kW発電機32台を設置し、2250万kWの発電が可能になっています。これは最新の原子力発電所や大型火力発電所の16基分に相当し、世界最大の水力発電ダムになります。

2020年の夏は、日本でも連日、いまにも三峡ダムが決壊する。そうすると、武漢はもちろん、上海も水浸しになる、という報道がされていました。その最高水位に達した翌日、三峡ダムを訪問したのですが、ダムの上流も下流も、優雅に遊覧船で観光することができました。5段のゲートを約2時間かけて三峡ダム開門を乗降しますが、目の当たりにすると感動します。

武漢には、「武漢、每天不一樣！（武漢は、毎日違っている！）」、「Wuhan, Different Everyday！」という標語があります。あらゆるところで工事が行われており、日々成長し、新しい姿を作っている街です。つまり、武漢の魅力は、毎日変わっており、日々新たな魅力が生まれています。

追記

実は、本草稿、8月8日、東京オリンピック閉幕式を見ながら書いています。8月7日時点、日本全国では新規感染者1万5千人を超えています。7月末からデルタ株が蔓延し始め、8月3日に中国国家衛生健康委員会が発表した前日の新規感染者数は61人、無症状感染者は23人ですが、中国31省市のうち半分を超える18地域で感染者が発生しています。

武漢市でも昨年5月以来はじめて、8月2日と3日の2日間で12人の感染者が発生したことを受け、1200万人の市民全員を対象にPCR検査が再び実施されることになりました。同時に、光谷のソフトパークにある当社オフィスも全館消毒されるとともに、武漢出張時に定宿にしていた漢陽区にある晴川のホテルも隔離ホテルになったと連絡を受けました。一日も早い回復を祈っています。